

平成22年度当初予算関係等  
研究評価結果報告書

山形県試験研究機関試験研究課題  
山形県試験研究機関業務課題  
山形県分野融合・萌芽研究推進事業課題  
山形県試験研究機関公募型研究課題

平成22年3月

山形県研究評価委員会

## 今回報告のあらまし

本報告書は、県試験研究機関が平成22年度試験研究等に取り組む①試験研究課題および業務課題、②分野融合・萌芽研究推進事業課題、③競争的外部資金を活用して取り組むことを目的として公募事業に新規応募を予定している課題について、事前評価結果を取りまとめたものである。

事前評価は、①については、提出された研究計画書等に基づいて書面評価を行った。さらに、新規課題および研究期間の中間年次に該当する課題など当委員会で選定した課題については、書面評価に加え、技術プレゼンテーションと委員からの質疑内容を加味して評価を行った。②、③については、計画書等に基づいて書面評価により行った。

事前評価を実施した課題については、評価結果およびコメントを付して県のホームページで公表する。

## 1 平成22年度県試験研究機関試験研究課題および業務課題の事前評価

### 1-1 評価対象及び評価方法

県試験研究機関が実施する試験研究116課題および業務37課題の合計153課題について、提出された研究計画書等に基づいて評価を行った。さらに、新規課題および研究期間の中間年次に該当する課題など当委員会で選定した課題については、書面評価に加え、技術プレゼンテーションと委員からの質疑内容を加味して評価を行った。これら実施機関別課題数を次表に示す。

機関名	試験研究課題		業務課題	
		うち発表 課題数		うち発表 課題数
文化環境部 環境科学研究センター	1	1		
健康福祉部 衛生研究所	5	3	5	
商工労働観光部 工業技術センター	20	13	8	1
工業技術センター置賜試験場	1			
工業技術センター庄内試験場	3			
農林水産部 農業総合研究センター	12	8	7	
農業総合研究センター園芸試験場	22	8	5	
農業総合研究センター水田農業試験場	9	7		
農業総合研究センター畜産試験場	10	5	1	
農業総合研究センター養豚試験場	3	1	1	
水産試験場	4	2	3	
内水面水産試験場	4	2	2	
森林研究研修センター	10	2	5	
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	1			
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	5	3		

置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	2	2		
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	4	2		
計	116	59	37	1

## 1-2 評価の視点

平成22年度県試験研究機関が実施する予定の(1)試験研究課題、(2)業務課題について、各々、評価の視点を次表に示す。

### (1) 試験研究課題 (公募型継続課題を含む)

評価項目	評価の視点
目標の達成度	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。
研究進度に応じた熟度	当該研究が目指すべき最終成果に対して当該研究が位置する段階を認識し、各段階における知見、技術的課題、連携・協働や公募型研究プロジェクトへの展開可能性などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用(マーケティング)及び実現可能性(フィージビリティ・スタディ)の検討・検証がなされているか。
研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

### (2) 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の合目的性	試験研究機関全体としてのミッション(期待される具体的な使命)の中で、当該業務の位置づけが明らかになって折りか。
業務の発展性	当該業務が担う役割や個々の試験研究との関連について検討され、これらの情報について有用性や発展性について検討されているか。
業務の戦略性	相談や検査・調査、普及、指導等の業務を研究開発への展開や社会、生活に還元しようとしているか。
業務の機関適格性	当該業務の内容が、試験研究機関の担っている役割分担や能力に見合っているか、他機関との連携・協働等について検討されているか。

## 1-3 評価結果の概要

概要を次表に示す。個別課題毎の評価結果と評価委員会による助言・指導については巻末表(表1、頁7~14)のとおりである。

### (1) 試験研究課題 (公募型継続課題を含む)

#### ① 研究評価

研究評価結果	課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題(公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)	◎ 2
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題(公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)	○ 102
研究の手法や目標の設定など研究計画の一部を見直すべき課題(公募型研究課題にあつては、計画の一部を見直したうえで)	△ 12

提案すべき課題)		
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	×	0

## ②熟度評価

研究の熟度	熟度評価	課題数
研究開発を実施していく段階にあるもの	A	87
フィージビリティスタディ、マーケティング調査などを実施すべき段階にあるもの	B	22
事前調査等研究会レベルから実施すべき段階のもの	C	7

## (2) 業務課題

評価結果		課題数
業務計画が適切であり、実施すべき課題	可	37
業務の内容や目標の設定など業務計画を見直したうえで実施すべき課題	不可	0

### 1-4 事前評価における評価委員による意見

#### (1) 試験研究機関ごとの連携と研究 PR 方法

- ・個々の研究課題に先がけて発表が行われる行政レビューは、県の施策を展望する意味で重要で、試験研究機関における研究提案等に反映されていて大変良い。今後も継続いただき、議論を含め、発表時間を長めに設定されたい。また、所属長などによる発表の際、全体を見渡す視点からの発表を心がけ、農工連携など異分野連携プロジェクトへの発展を期待したい。
- ・農林水産関係の温暖化に対応する課題など、試験研究機関ごとに分かれてプレゼンテーションが行われたが、技術内容を分野別に適切にグルーピングし、県の姿勢を説明できれば更に良い評価が可能である。
- ・効率的に研究を構築するという点で困難ではあるが、できるだけわかりやすい説明を心がけるようお願いしたい。各試験研究機関は、事業実施にあたり、一般の県民に対し、説明する社会的責務があるが、納得できるような発表を検討いただきたい。

#### (2) 研究評価資料の作成方法について

- ・新規、継続の区別なく、個々の試験研究機関が保有するシーズデータを紹介いただきたい。研究者の能力を判断できる素材を提案資料にはぜひ記入いただきたい。書面評価の場合、特に理解が十分ではなく、評価が低い研究課題が多い。
- ・資料作成について、わかりやすく書く工夫が必要である。アドバイザーボードにはプレゼンテーションをはじめ、詳しく説明がなされているが、評価委員にもその一端を示してほしい。

### (3) 新たな予算の確保に関する検討

- ・分野融合・萌芽研究推進事業など若手研究者が自ら提案し、育成する研究テーマが望ましい。評価委員会としても既存の枠にしばられない斬新なテーマの出現を期待する。
- ・提案理由が不明の研究課題がある。専門外の評価委員を納得させる工夫が必要である。各テーマごと関連性について検討していただきたい。

## 2 平成22年度県分野融合・萌芽研究推進事業課題の事前評価

県分野融合・萌芽研究推進事業は、平成21年度まで県価値創造型研究開発推進事業として県試験研究機関を対象に単年での応募実施してきたものを、平成22年度から改編して募集を行い、事業実施することになったものである。

### 2-1 評価対象及び評価方法

本事業には、若手研究者の研究支援枠と戦略的研究プロジェクト創出枠の2つの推進枠がある。今回、若手研究者の研究支援枠では5課題、戦略的研究プロジェクト創出枠では2課題の応募があった。応募課題については、提案書により書面評価を実施し、採択課題を決定する。これらの機関別応募内訳を次表に示す。

機関名	若手研究者の研究支援枠	戦略的研究プロジェクト創出枠
農林水産部 農業総合研究センター園芸試験場	2	1
水産試験場	1	1
内水面水産試験場	1	
森林研究研修センター	1	
計	5	2

### 2-2 評価の視点

平成22年度県試験研究機関が実施計画している(1)若手研究者の研究支援枠、(2)戦略的研究プロジェクト創出枠について、書面評価の視点を次表に示す。

#### (1) 若手研究者の研究支援枠

評価項目	評価の視点
研究の独創性・明確性	○新規性、創造性があるか。 ○研究目的が明確になっているか。 ○地域ニーズの把握が適切に行なわれているか。
研究の発展性	○本研究期間終了後の展開方向性が明確であるか。
成果波及の可能性	○研究成果活用の見通しを明確に保持しているか。 ○将来の実用化研究に向けた取組みとなる研究であるか。
研究手法の妥当性	○目的に至るための様々な手法について検討したうえで

	適切な研究手法が選択されているか。(広い視野・異分野等)
--	------------------------------

(2) 戦略的研究プロジェクト創出枠

評価項目	評価の視点
目的の明確性	○本県への社会還元が可能か。 ○研究目的が県内産業及び県民生活との関連性があり、本県の経済・社会ニーズに対応した内容であるか。
成果活用の見通しと実現可能性	○研究成果の実用化や普及展開が期待できるか。 ○研究の進捗に応じた技術課題や競合研究等に対する具体的優位性の検証が行なわれているか。
研究計画の戦略性	○研究計画の戦略化が明確であり、次ステージにおいて、競争的外部資金への獲得等を視野に入れているか。 ○プロジェクト化への展開可能性があるか。
研究手法の妥当性	○研究計画において適正な目標が設定されており、目標達成に向けた各課題に見合った研究体制、進行管理がなされているか。 ○目的に至るための様々な手法について検討したうえで、適切な研究手法が組み込まれているか。

2-3 採択結果

結果概要を次表に示す。若手研究者の研究支援枠は2課題、戦略的研究プロジェクト枠では2課題採択可と認められる。内訳は、若手研究者枠では農業総合研究センター園芸試験場と森林研究研修センターの2課題で、戦略的研究プロジェクト創出枠では農業総合研究センター園芸試験場と水産試験場の2課題である。

個別課題毎の評価結果と評価委員会による助言・指導については、報告書巻末の資料(表2、頁14)のとおりである。

	若手研究者の研究支援枠	戦略的研究プロジェクト創出枠
採択数	2	2
不採択数	3	

3 平成22年度県試験研究機関公募型研究課題の事前評価

3-1 評価対象及び評価方法

競争的外部資金を活用する事業に新たに応募する14課題について、提出された研究計画書等により書面評価を行った。委員からの研究計画への質疑に基づいて、申請の際に参考とするための指導・助言および評価結果をとりまとめた。これら応募機関別課題数を次表に示す。

機関名	公募型応募課題
農林水産部 農業総合研究センター	2
農業総合研究センター園芸試験場	4
農業総合研究センター畜産試験場	3

農業総合研究センター養豚試験場	1
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	2
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
計	14

### 3-2 評価の視点

競争的外部資金を活用する事業に応募を予定する公募型研究課題について、評価の視点を次表に示す。

評価項目	評価の視点
目標の達成度	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。
研究進度に応じた熟度	当該研究が目指すべき最終成果に対して当該研究が位置する段階を認識し、各段階における知見、技術的課題、連携・協働や公募型研究プロジェクトへの展開可能性などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用（マーケティング）及び実現可能性（フィージビリティ・スタディ）の検討・検証がなされているか。
研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

### 3-3 評価結果の概要

概要を次表に示す。競争的外部資金への申請については14課題とも応募可とする。個別課題毎の評価と評価委員会による助言・指導については報告書巻末の資料(表3、頁15)のとおりである。

評価結果		研究課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題（公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題）	◎	0
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題（公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題）	○	12
研究の手法や目標の設定など研究計画の一部を見直すべき課題（公募型研究課題にあつては、計画の一部を見直したうえで提案すべき課題）	△	2
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	×	0

表 1 平成22年度県試験研究機関研究課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
1	鉱油による地下水・土壌汚染の微生物分解に関する研究	環境科学研究センター	△	A	微生物分解に関する先行研究を十分に調査するとともに、基礎データを収集しながら新規性、発展性のある研究としてください。
2	抗インフルエンザ活性の生物検定法確立及び県産食材からの抗インフルエンザ活性物質の分離	衛生研究所	○	B	抗ウイルス活性が高い食品素材を探索する手法として評価します。その際、抗ウイルス活性の作用機序の研究も重要ですので、研究論文などを参考に将来につながるデータ収集を目指してください。
3	食用菊等県産食材の機能性研究ー抗ピロリ菌作用・アルコール摂取に対する作用などー	衛生研究所	○	B	食用菊の成分効果を期待して研究を進めるのか、抗菌対策が焦点なのかをはっきりさせて研究を進めていただきたい。これまでの成果を活かして実用化につなげてください。
4	自然毒中毒防止のための毒性研究	衛生研究所	△	A	ツキヨタケ、トリカブトの毒成分の徹底究明や総合的研究など、本県における実績のあるテーマに絞って研究を推進し、その成果を生かしていくべきと考えます。
5	山形県におけるつつが虫病の疫学的研究	衛生研究所	○	B	患者数は少ないようですが、ツツガムシ病は重大な病気ですので、基礎的研究として今後も進める価値があると考えます。
6	潜在的ハチアレルギーサーベイランスのための簡易な検査法の開発	衛生研究所	△	C	血中に存在するアレルゲンIgE抗体をだ液で測定しようとしていますが、困難が予想されます。研究期間中に成果が得られるよう、研究目標・計画をよく吟味して取り組んでいただきたい。
7	結核菌に対するVNTR型別解析	衛生研究所	可	業務	本県で実績のあるVNTR手法を用いて解析することにより、結核感染症の対応を迅速に行うことができます。本県のみならず他でも利用できるデータベースの構築を目指してください。
8	マイコプラズマ培養受託	衛生研究所	可	業務	マイコプラズマ菌を培養、分離している機関は全国的に少ないため、より信頼性のある診断キット開発に貢献することを期待します。
9	職員研修(国立保健医療科学院、新興再興感染症技術研修)	衛生研究所	可	業務	専門的な技術や知識の習得のため必要な研修と考えます。
10	職員研修(NPOバイオメディカルサイエンス研究会、病原体等安全管理技術者養成講座)	衛生研究所	可	業務	病原微生物の検査や研究を行う職員は、バイオセーフティに習熟している必要があり、研修受講は推奨されるべきと考えます。
11	衛生研究所設備整備	衛生研究所	可	業務	技術の進歩にあわせて必要な機器を整備し、また老化した機器を定期的に更新することによって、地域の要求に応えてください。
12	鋳鉄組織の超微細化技術及び鋳鉄と異種金属との接合技術の開発	工業技術センター	○	A	黒鉛鋳鉄組織の超微細化技術について、知的財産の保護を前提に、県内企業に限らず、活用の途を広く探ってください。実用化に向け、成果が得られることを期待します。
13	粒状セメント球状黒鉛鋳鉄の開発	工業技術センター	○	B	これまでの粒状セメント球状黒鉛鋳鉄の研究成果をまとめ、次の研究につなげて下さい。実用化につながる成果を期待します。
14	アルミニウムによる銅の錆ぐるみ接合技術の開発	工業技術センター庄内試験場	○	A	アルミニウムによる銅の錆ぐるみ接合技術で、サイクルタイム短縮が実現することを期待します。他機関での試験例やスムーズな技術移転にも留意しながら研究を進めてください。
15	射出成形による微細形状転写技術の確立	工業技術センター	○	A	プラスチック製高精細光学レンズ以外の微細部品加工への転用も念頭に研究を進展させてください。
16	機械加工による微細構造光学素子用金型の開発	工業技術センター	○	A	ナノインプリント金型の機能として何が求められているかを十分に把握し、特徴や課題を明確にすることが大切です。他機関等の研究開発に十分留意しながら優位性のある部分に焦点をあて、開発を進めていただきたい。
17	MEMS技術を用いた極微細金型作製技術の開発	工業技術センター	○	A	イオンエッチングによる極微細金型作成技術を利用し、研究成果からどのように製品化していくのかに留意してください。ターゲットデバイスの選定は、県内企業ニーズを考慮してください。
18	砕石粉の実用化試験	工業技術センター	△	A	廃棄物となる砕石粉の利用は、持続可能な社会を実現するため、重要と考えられます。リサイクルに要するコストも考慮して実用化に向けた研究を進めてください。
19	企画情報事業	工業技術センター	可	業務	業務の必要性があると考えます。
20	高度技術者育成支援事業	工業技術センター	可	業務	先端技術を担う研究者の能力向上を目指すための研修は不可欠と考えます。



21	施設・研究機器保守検定事業	工業技術センター	可	業務	技術指導、受託試験・分析研究のための信頼性を確保するため必要です。
22	ものづくり企業支援事業	工業技術センター	可	業務	県内企業技術シーズと製品化ニーズを繋ぐ共同研究は重要です。
23	指導試験事業	工業技術センター	可	業務	県内企業の多様な課題に迅速に対応する技術指導、相談等は重要であり、支援体制を強化しながら進めていただきたい。
24	デザイン振興事業	工業技術センター	可	業務	事業効果の発現に向け、ものづくり企業支援事業との役割分担を明確にしながら進めてください。
25	低損傷加工技術の確立	工業技術センター	○	A	脆性材料の破壊損傷に関する評価法の確立が第1の目的で、この点を十分クリアしたうえで、次の段階への展開を図ってください。次の段階では、脆性破壊を防ぐための課題を明確にし、研究成果の出口や目標を具体的に示して研究を進めていただきたい。
26	大気圧マイクロプラズマによる軸付き電着砥石の長寿命化	工業技術センター	○	A	大気圧マイクロプラズマによる成膜は高度な技術であり、具体的な開発製品をイメージしながら、3年間で達成可能な範囲を精査し、計画的に取り組んでください。
27	カーボンナノチューブを複合した高性能・超薄型砥石の開発	工業技術センター	○	A	カーボンナノチューブは注目されている材料です。メカニズム解明も含め、研究を進め、工具への応用につなげてください。
28	低干渉光を用いた光計測応用技術の開発	工業技術センター	○	A	光学製品の高精度加工を行うための手法として興味ある課題です。加工精度と加工効率の数値目標については、その意味・意義を明確にししながら進めてください。
29	MEMS型可動グレーティングを用いた高精度3次元計測技術の開発	工業技術センター	○	A	MEMS干渉計などこれまでの成果を活かし、企業との共同研究などへ発展させ、小型3次元形状計測器の実用化に結び付けてください。
30	MEMS型流体制御素子を用いた生化学分析システムの開発	工業技術センター	○	A	MEMSを分析操作の自動化に利用し、高性能化を図るというアイデアは興味深く、バイオテクノロジーなどの応用場面を見定め、研究を進めて下さい。感度や使い易さが有意に向上する成果を期待します。
31	カーボンナノチューブを用いた発泡成形体の開発	工業技術センター	○	A	CNTの活用として興味深い研究ですが、数値目標やコスト低減を達成するための具体的な方法について、目標間のトレードオフの関係の有無にも留意しながら進めてください。
32	「山形酒104号」を使用した(純米)大吟醸酒の試験醸造	工業技術センター	○	A	県産酒米を使った新たな酒づくりとして評価できます。米どころ、酒どころである山形のイメージアップにつながる成果が得られることを期待します。
33	市場ニーズに応える発泡清酒の多様化研究	工業技術センター	○	A	消費者ニーズを的確に把握しながら、特徴あるオリジナルな酒の開発を進めようとするものであり、評価します。製造方法が酒の品質などに与えるメカニズムの解明にも配慮してください。
34	県産葡萄を用いた微生物によるワイン醸造技術の開発ー第二期やまがた貴腐ワイン創成プロジェクト	工業技術センター	○	B	これまでの研究でどのような水準の貴腐ワイン試作まで到達したかを明らかにしてください。貴腐化における天候の影響制御や微生物を利用した貴腐化による高品質ワイン製造の基礎データを蓄積し、長期的視点に立って取り組んでいただきたい。
35	界面前進凍結濃縮・膜分離複合法による新規の果実香料素材開発	工業技術センター	○	A	製造コストを意識して目標設定し、製品化に向けて進めていただきたい。また、香氣成分を大量に含む素材もさらに探索することも良いと思います。
36	粒状ゲル、酵素を用いた食品の物性改善に関する開発は、ざん新で応用性の高い技術と考えられます。しかし、現段階では製品ターゲットが十分絞り込まれていない印象があり、食肉加工と果実加工での差異やコスト面にも考慮しつつ、食感のモデル化などの基礎研究を進めてください。	工業技術センター	○	A	
37	県産紅花を利用したニット原糸の開発	工業技術センター	△	C	ペニバナの新たな利用法開発の点では興味ある内容です。ウール紅花染めの基礎データを収集し、染色のメカニズム解明について更に研究を進めるとともに、地域性のある製品の開発に結び付けていただきたい。
38	電磁誘導加熱に適した鋳鉄基地組織の特性評価	工業技術センター置賜試験場	○	B	IH調理器の普及が進んでおり、地元企業のニーズに対応した研究として評価します。発熱効率と組成・組織構造との関連を明確にされるよう期待します。
39	機能性を活かした食品加工技術開発と商品開発	工業技術センター庄内試験場	○	A	機能性を活用した製品開発の研究戦略は面白いと思います。柿などの地域特産品の基礎データをさらに蓄積し、研究手法、計画を吟味して製品化を目指して試験を進めて下さい。
40	庄内特産果実(日本梨)の高度加工技術開発	工業技術センター庄内試験場	○	A	ニホンナシの規格外果実の有効利用ができれば有用と考えられます。消費者の意見を取り入れ、ニーズにあった技術にしていきたい。また、機能性の解明にはさらにデータの蓄積が必要なので、本課題ではまず、加工技術に重点をおき、取り組んでください。
41	委託分析試験事業	工業技術センター	可	業務	委託分析や設備利用による地元企業の技術支援として意義は大きいと思います。

42	低炭素適用形製造業競争力強化事業(スマートセンサ活用省エネ診断事業)	工業技術センター	可	業務	平成21年度の実証モデル事業の成果を事業形態の異なる事業所に技術移転し、省エネ診断を実施することの有効性は認められますが、継続的な実施のためには、事業の必要性や意義をより明確にすることが望まれます。
43	県産スギ材を活用した外構部材の開発	工業技術センター	△	A	杉材は強度や吸湿性の点で不利な素材であるため、サッシなど外構部材のほか幅広く用途を検討するとともに、常に生産コストを考慮しながら研究を進めてください。
44	水稲害虫フタオビコヤガの効率的防除体系の確立	農業総合研究センター	○	A	米農家が抱える害虫被害の軽減化を目的とした研究として評価します。多発要因の解明や多発条件の洗い出しにより早期に実現されることを期待します。
45	野菜等におけるPOPSのリスク低減技術の開発	農業総合研究センター	○	A	土壌中の残留有機化合物による農作物への影響を低減する緊急性の高い課題です。他チームとの連携を密にして目標達成を図っていただきたい。
46	東北地域の葉菜畑におけるファイトレメディエーション技術の開発	農業総合研究センター	○	A	土壌汚染を恒久的に除去できる技術として期待しています。畑と水田の汚染の質の違いを明確にして、安心な県産野菜の提供に貢献してください。
47	水田土壌におけるリン酸施肥削減技術の開発	農業総合研究センター	○	A	リン酸資源の使用量削減は、大切な研究課題です。綿密な研究計画に基づいて研究を進められることを期待します。
48	フェロモントラップを基幹としたアカヒゲホソミドリカスミカメ高度発生予察技術の開発	農業総合研究センター	○	A	斑点米カメムシは、水稲の最重要害虫であり、薬剤を散布する時期を精密に予測することは減農薬農業推進の点からも大切なことです。これまでの成果を踏まえ、より精度の高い予察技術の確立を期待します。
49	農産物加工開発技術指導	農業総合研究センター	可	業務	農産加工グループなどへの指導効果により、新たな特色ある製品が生み出されることを期待します。より一層の効率的な指導を望みます。
50	食品用途を目指した紅花の新たな栽培技術と高品質加工技術の開発	農業総合研究センター	△	A	紅花に関する「農業に依存しない栽培技術」及び「機能化食品素材の開発」両面の研究ですが、食用としての有用性やおいしさの追求など、食品素材として利用する場合の具体的な研究目標を精査して研究を進めていただきたい。
51	特産野菜の新規保鮮流通技術の開発	農業総合研究センター	○	C	県内で消費が多い特産野菜(えだまめとさといも)について、生産者、農産加工グループだけでなく、消費者の意見も反映して研究を進めることを期待します。味、見た目だけでなく栄養価等科学的エビデンスにも留意してください。
52	県産果実の簡易乾燥及び利用技術の開発	農業総合研究センター	○	C	単年度のFS研究ですが、関連研究の蓄積を有する大学との連携や関連先行事例調査等、基礎的な研究をしっかりと行い、次の実用化研究につなげてください。
53	水稲畑作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター	可	業務	奨励品種の決定に際し、有望種の選定や育種の検討は、本県にとって大切な業務です。より精度の高い品種選定に結び付けてください。
54	そばの安定生産に向けた多収品種の育成及び多収栽培技術の開発	農業総合研究センター	○	A	収量水準が全国平均を下回る原因を明確にする研究を行いながら、本県の栽培環境に適した品種の育成を目指していただきたい。
55	土地利用型作物の生産振興を支援する新たな大豆栽培体系の確立	農業総合研究センター	○	A	現地実証試験を通じて基礎データを集積し、大豆栽培体系の再構築に結び付けてください。
56	過熱水蒸気を利用した水稲種子の高効率消毒技術の開発	農業総合研究センター	可	業務	いもち病などの防除に対する新たな水稲種子消毒法の実用化、製品化に期待します。
57	新農薬(殺虫剤・殺菌剤)の効果と使用法試験	農業総合研究センター	可	業務	新農薬使用の安全性の問題など地域特性を考慮した適正な使用方法を検討する重要な業務です。
58	新除草剤及び新植物調節剤に関する試験	農業総合研究センター	可	業務	効果的な薬剤使用を検討する重要な業務です。
59	新肥料及び新資材に関する試験	農業総合研究センター	可	業務	生産者に役立つ肥料や資材を検討する重要な業務です。
60	県産米利用促進のための米粉生産・加工技術の開発	農業総合研究センター	○	B	米粉の生産・加工過程における成分特性や物性計測など科学的データの蓄積を進めてください。オリジナリティーのある研究成果を期待します。
61	ラズベリーやカシスを中心としたベリー類の加工利用技術の開発	農業総合研究センター	○	B	国内産ベリー固有の機能性や加工性を検討し、パウダー化や香りの利用など大手メーカーで開発されていない事項に注目しながら研究を進めてください。
62	ばら養液栽培における日射及び水分センサを用いた自動給液制御技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	自動給液制御技術の応用として興味深い課題です。設備投資等のコストを考慮する等、全体計画を常に意識しながら取り組んでください。

63	おうとうの中晩生種に発生する果実病害の発生生態解明と防除対策の確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	病害発生の基礎研究として必要性は認められます。これまで十分な成果が出ているとは言えない点もありますので、発生メカニズム解明を第一に取り組み、よい成果につなげてください。
64	おうとう新品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	おうとう新品種の開発は本県にとって重要な課題です。樹木特性からの育種のほか、消費者が求めるイメージも参考に取り組んでください。
65	第6期山形県西洋なしオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	優良品種の開発には継続的な取り組みが必要であり、価格向上や需要喚起につながるような品種の開発を期待します。
66	食用ぎくの品種開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	県として取り組むべき研究課題です。色、香り、機能性と品種の関連も振り返りながら、育種を進めてください。特徴ある品種の開発を期待します。
67	りんどうオリジナル新品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	選抜による市場性の高い品種の育成を行うとともに、分子生物学的手法による改良種との関連なども意識しながら取り組んでください。
68	園芸作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター園芸試験場	可	業務	付加価値の高い品種を世に出すために必要な業務です。本県に適した品種の選定を期待します。
69	県ブランド維持のための県オリジナル品種のDNA識別技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	基礎的研究実績に基づいたしっかりとした研究と言えます。これまでの問題点を整理するとともに、費用対効果も意識しながら進めてください。
70	特産園芸作物の原種苗供給	農業総合研究センター園芸試験場	可	業務	ウイルスフリー原種苗の供給は重要です。産地の安定生産に向け、継続して努力していただきたい。
71	果実が大きくなる機構解明のための大果変異西洋なしのゲノム解析	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	基礎研究として意義があります。西洋なし以外にも応用できるかどうかにも興味深く、新品種の提案に向け努力していただきたい。
72	地域遺伝資源「食用ぎく」における系統識別技術と優良系統の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	本県の食用菊の特性を理解する上でも、育成品種の保護の面でも必要な課題です。優良系統の選定のために努力してください。
73	低樹高・新型雨よけ施設によるおうとうの軽労安定生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	軽労化は今後の農業にとって不可欠です。農家など現場の意見を聞きながら、使える技術に仕上げるとともに、研究成果の移転がスムーズに行えるよう配慮してください。
74	ぶどう「シャインマスカット」の産地化推進技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	新品種ぶどうの現場普及をしっかりと見極めて研究を進めてください。樹勢安定化技術が早期に現場で活用されることを期待します。
75	すいかの整枝作業省力・安定栽培技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	すいかの整枝について、職人的技能を不要にすることは重要です。最終年度に向け、省力化技術の確立に努め、有効なマニュアルを作成されることを期待します。
76	加工・業務需要野菜栽培システムの確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	食品の安全性が注目されている現在、重要な研究テーマであり、着目点のよい研究計画です。加工用食品素材は海外からの素材との競合が厳しいので、生産コストも十分考慮した研究を検討してください。
77	ニュータイプ「食べやすい すいか」の安定栽培技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	種なしすいかの作出などに関し、目的がわかりづらくなっています。過去の経緯を十分踏まえ、課題を明確にして取り組んでください。また、市場拡大のための方策にも配慮していただきたい。
78	アスパラガスの周年供給に向けた促成用根株養成技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	栽培技術の体系化として重要な課題です。課題を整理し新たな工夫の余地がないか十分検討していただきたい。また、実用化のためには研究のスピードアップが必要です。
79	きく等主要花き類の光応答解析に基づく効率的生産・出荷技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	主要花き類における光応答性に注目した独自性の高い研究です。成果がもたらされれば、現場へ高く貢献する研究と考えられます。基礎データを着実に収集し、実用化につなげていただきたい。
80	農産物の機能性を高める栽培技術の開発と品種育成	農業総合研究センター園芸試験場	△	A	メタボローム解析技術を活かした異分野融合研究として、付加価値の高い成果が期待されます。地域の農産物の高機能化などにさらに取り組んでいただきたい。
81	野菜花き民間育成品種の評価	農業総合研究センター園芸試験場	可	業務	迅速な有料品種の選定を期待します。
82	果樹防除用ノズルの評価試験	農業総合研究センター園芸試験場	可	業務	依頼に応じていただきたい。
83	オリジナル四季成りいちごの産地化技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	山形オリジナルいちごの産地拡大に必要な研究です。複数の技術課題があるので、進捗管理をきちんとして成果につなげていただきたい。

84	りんご早生有望品種「ファーストレディ」の早期成園化と安定生産技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	りんご早生有望品種の安定生産技術は、戦略的にも重要で緊急性の高い課題です。21年度までの研究成果を活かし、技術確立につなげていただきたい。
85	水稲用豚ふん堆肥ペレットの製造と効率的省資源型施用技術の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	豚ふん堆肥の優位性、また、具体的な活用法などを説明していただくとうわかりやすいと思います。未利用資源の有効利用を目指し、取り組んでいただきたい。
86	第Ⅳ期水稲主力品種の育成	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	米生産県として取り組むべき課題だと思います。研究計画は良い指標に基づいて整理されており、評価します。
87	第Ⅱ期地域特産型水稲品種の育成	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	新たな米需要の拡大に対応した新品種開発の必要性は理解できます。長期的な計画をたて、それに沿って展開を図ることが重要です。現状の問題点を整理し、目的を絞って進めてください。
88	DNAマーカー利用による水稲の高精度な育種法の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	育種のひとつの手法として取り組むべき課題であり、研究目的も明確になっています。先行研究の成果を取り入れるなどして成果をあげることを期待します。
89	低アミロース品種「里のゆき」の品質向上・安定化要因の解明と技術確立	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	低アミロース米研究の必要性に関する説明が不足しています。研究の独自性も乏しいと思います。乳白粒の発生メカニズムを解明することが重要であると考えます。
90	新品種「つや姫」の技術的評価と栽培法の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	つや姫のブランド化にとって重要な課題だと思います。食味特性を解明し、ブランド力の向上に期待します。
91	山形県における水稲有機栽培技術の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	減農薬の視点から興味ある課題です。科学的根拠の解明を進め、水稲有機栽培技術の普及拡大に期待します。
92	遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	○	A	肉の脂肪酸不飽和度を決定する因子を明らかにすることが必要です。また、遺伝子発現の検討をするうえで、血清の使用で十分可能かどうか検討し取り組んでください。
93	飼料作物系統適応性検定試験	農業総合研究センター畜産試験場	可	業務	開発された系統の地域適応性を調査し、適切な栽培地域を決定することは、国内の粗飼料自給率向上のために重要であると思います。
94	秋季天候不順地域におけるカロテン調整飼料イネWCS利用による高品質牛肉の生産	農業総合研究センター畜産試験場	○	A	βカロテン含量の消長と関わる因子の科学的解明が必要と思います。研究成果の現場普及をも視野にいれて取り組んでください。
95	トモロコシサイレージの高栄養化と乳牛への濃厚飼料代替給与技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	△	A	栄養価の評価、栽培等に要する労働力の評価などトモロコシサイレージの評価基準を整理したうえで、より明確な研究目的を設定し、研究を進めてください。
96	ルーメン発酵パターン改善による牛肉生産性向上	農業総合研究センター畜産試験場	△	B	ルーメン発酵の様々なパターンを人工ルーメンでモデル化することができれば、研究のスピードアップにつながると期待されます。より具体的な目標を設定しながら研究を進めてください。
97	BDF由来グリセリンを活用した冬越し堆肥の発酵促進	農業総合研究センター畜産試験場	○	B	廃グリセリンの量的確保という点も検討する必要があります。冬季の堆肥熟成促進という雪国特有の問題の解決につながる成果を期待します。
98	体外受精由来胚の凍結保存後の生存性向上	農業総合研究センター畜産試験場	○	B	和牛増産のためには凍結体外受精胚の受胎率向上が不可欠と考えられます。胚の脂肪酸組成を明らかにすることは、胚の品質評価にとって大変重要な知見になります。しっかり基礎データを取り、研究成果を次の段階につなげてください。
99	和牛肉香氣成分の定量法の開発	農業総合研究センター畜産試験場	○	B	興味深い取組です。「甘い香り」の成分の具体的特定が先決ですが、前駆体との関係や、物理的・化学的な安定性についても解明してください。
100	県有種雄牛産子の発育性の評価とそれに基づく育成技術の組み立て	農業総合研究センター畜産試験場	○	A	子牛の発育性評価の研究として価値のある内容だと思います。研究を進めるにあたり、柱となる方針を決め、それに沿って具体的な計画をたてて展開してください。
101	飼料米の低コスト・多収生産と効果的給与技術の確立	農業総合研究センター畜産試験場	○	A	飼料用米の活用マニュアル化のための基礎データ蓄積など重要な課題です。効果的な給与技術、家畜発育や品質向上など更なる研究の発展を期待します。
102	豚に対する飼料用米給与技術の確立	農業総合研究センター養豚試験場	○	B	豚の肥育前期までの飼料用米利用を明らかにする研究として評価できます。効果的な給与技術の確立を期待します。
103	豚精液凍結手法の改良による繁殖成績改善効果の検討	農業総合研究センター養豚試験場	○	B	研究成果が出ていると思います。研究内容をさらに検討して進め、成果につなげていただきたい。
104	豚疾病対策を目的とした抗体検出法の開発	農業総合研究センター養豚試験場	○	B	豚疾病対策の有効な取組みとして評価できます。研究成果を新たな抗体検出法の構築に結びつけてください。

105	中ヨークシャー種交雑豚の特性把握	農業総合研究センター養豚試験場	可	業務	新たな銘柄豚の開発につながるデータの提供ができるよう期待します。
106	漁獲加入量予測モデル開発事業	水産試験場	○	B	漁獲加入量の予測と発生機構の解明は、近海漁業にとって重要と考えられます。他の研究も参考にしながら着実な成果を期待します。
107	新漁業管理制度推進情報提供事業	水産試験場	可	業務	スルメイカ、マダラ等の漁況予測や海洋観測は、漁業関係者に重要な情報と考えられます。継続してデータを収集し、情報提供に努めることを期待します。
108	底びき網漁業活性化対策調査	水産試験場	可	業務	底びき網漁業の重要魚種であるマダラ、スケトウダラ等の資源状況の調査・情報提供に努めてください。
109	ナマコの資源診断とその対策の研究	水産試験場	○	C	ナマコの資源管理を行なうことは重要と考えられます。漁業者の意見を取り入れて研究を進め、資源管理情報の提供につながることを期待します。
110	ソフトシェルクラブ生産実用化(真菌症対策)のための技術開発	水産試験場	○	A	ガザミ養殖で得られた成果に基いた応用研究として進展を期待します。真菌症などの感染防止対策、生態や脱皮メカニズムの解明等については、目標設定を明確にし、さらに、費用対効果についても十分に検討のうえ、進めてください。
111	サケ・サクラマス資源調査	水産試験場	可	業務	サクラマスなどの資源維持、資源拡大に効果が現れるような研究の視点をもって取り組んでください。
112	イワナ在来個体群の保全及び利用技術の開発	内水面水産試験場	○	B	在来種の保護は、生物多様性における資源管理の観点から重要と考えられます。イワナの資源管理に向け、観測調査をしてください。
113	アユ漁場環境の再生技術開発	内水面水産試験場	○	B	アユ資源確保の点で必要な課題です。十分な成果が得られていない要因を明確にし、研究計画をしっかりと検討して目標を達成していただきたい。資源の確保に有用なデータの蓄積を期待します。
114	休耕田を利用した複合養殖技術の開発	内水面水産試験場	△	C	複合養殖のモデルを確立し、普及することは生産性向上、リスク分散の点で有用と考えられます。市場性、経済性を十分に考慮のうえ、具体的な目標を設定し、研究を進めてください。
115	内水面重要魚種(アユ、サクラマス)の資源動向及び河川環境モニタリング	内水面水産試験場	可	業務	アユ、サクラマスの資源量調査には、継続性が重要と考えられます。関連課題との連携・調整を図りつつ、進めていただきたい。
116	増養殖技術指導	内水面水産試験場	可	業務	内水面漁業の振興の観点から養殖指導や種苗供給は重要と考えられます。地域産業を支援することを念頭に実施してください。
117	県産スギ材の乾燥特性を踏まえた建築用材及びバイオマスとしての利用技術の開発	森林研究研修センター	○	A	県産スギ材の需要拡大を念頭においた研究として評価できます。建築用材とバイオマス利用技術開発の2つのテーマがありますので、先行事例を参考としながら効率的に進めてください。
118	次世代スギ品種の開発と実用化に関する研究	森林研究研修センター	○	B	品種の開発と実用化まで時間を要する課題ですので、長期的な視点に立つて取り組むべき課題です。無花粉スギの確立につながる成果を期待します。
119	高齢広葉樹林・病虫害被害林の早期再生に向けた管理技術の開発	森林研究研修センター	○	A	里山林の病虫害被害は深刻であり喫緊の課題です。5年間の研究ですが、研究手法等の検討により、できるだけ早期に実用化されることを期待します。行政との連携も考慮し研究を進めてください。
120	スギ過密人工林の管理手法の確立	森林研究研修センター	○	A	スギ過密人工林を適切に間伐する手法をマニュアル化する大切な課題と思います。
121	庄内海岸クロマツ林の健全管理・更新手法の確立	森林研究研修センター	○	A	庄内海岸のクロマツ林を健全に維持する重要な課題です。過去のデータを有効に利用し、モデルを作成してください。
122	原木栽培に適するキノコ系統の作出	森林研究研修センター	○	A	原木ナメコについては、菌床栽培との差別化ができるかどうかが重要です。優位性を科学的に示せるような考察をしながら進めていただきたい。今後は気象変動の影響を低減する方法についても研究してください。
123	山菜王国やまがたの次期主力山菜の開発	森林研究研修センター	○	A	山形の地域性を活かした研究課題であり、順調に進捗しています。計画的な栽培を可能とするような成果を期待します。
124	ナラ類集団枯損の予測手法と環境低負荷型防除システムの開発	森林研究研修センター	◎	A	優れた研究課題であり、順調に進捗しています。拡大の一途を辿るナラ枯れ被害を効果的、速やかに軽減するために早期の実用化を期待します。
125	広葉樹林化のための更新予測および誘導技術の開発	森林研究研修センター	○	A	生物多様性の保全等を目的とした興味深い研究テーマです。多数の機関が参画されますので、情報共有と連携に留意しながら基礎データを蓄積してください。

126	天然広葉樹林の新害虫コソラマルカイガラムシの被害発生要因の解明	森林研究研修センター	○	A	緊急性を有する課題であり、被害発生要因のための調査は欠かせないと思われます。早期に効果的な防除につながるよう成果が出ることを期待します。他研究機関との連携を密にして進めてください。
127	産業用無人ヘリコプターによるモリエートMCの松くい虫防除試験	森林研究研修センター	可	業務	松くい虫防除について、安全で効果的な駆除方法の試験であり価値があります。モリエートMCの適応拡大の農業登録により、本成果が早期に活用されることを期待します。
128	森林吸収源インベントリ情報整備調査	森林研究研修センター	可	業務	森林の炭素吸収量産出に必要な重要な調査です。最新情報に留意しながら取り組んでください。
129	突発性森林病虫獣害の調査	森林研究研修センター	可	業務	今後の病虫獣害対策に対する貴重な情報源として期待できます。有益なデータの収集に努めてください。
130	白色系ナメコの栽培に適する系統の調査	森林研究研修センター	可	業務	新たな特産品開発であり有用な業務です。品種登録を急ぎ、生産者への早期の技術移転につなげてください。
131	間伐材利用拡大システム調査	森林研究研修センター	可	業務	これまで利用されなかった木材の利用という観点で価値がある調査です。実用化には徹底したコスト削減が不可欠と思われるので、コスト面を意識して調査を進めてください。
132	園芸産地強化技術の開発 —おとうろ安定生産技術の開発—	村山総合支庁産地研究室	○	A	おとうろの安定生産に貢献する課題で評価します。生産技術のマニュアル化として必要であり、課題を絞って取り組んでください。
133	最上山菜産地ベースアップ技術の開発	最上総合支庁産地研究室	○	A	山菜の低価格化、産地間競争が厳しさを増しています。生産農家に対応した研究開発を行い、現地普及にむけ努力してください。
134	新たな産地育成のためのベリー類の品種特性の解明	最上総合支庁産地研究室	○	A	地域特産としての加工食品やグリーンツーリズムなどの付加価値をつけた素材としての戦略を大事にしてください。
135	四季成り性いちごの気化冷却高設ベンチを利用した夏秋どり高品質多収高設栽培技術の確立	最上総合支庁産地研究室	◎	A	順調に研究成果があがっている課題と思います。これまでの成果をまとめ、さらに発展させ、実践的なマニュアルができることを期待します。
136	ストップ耕作放棄地化！わらびの省力的な早期成園化技術の開発	最上総合支庁産地研究室	○	A	山間・中山間地の放棄地の有効利用として価値ある研究です。労力の削減と低コスト化が鍵となると考えられます。
137	国産ラズベリーの市場創出および定着のための生産・流通技術の開発	最上総合支庁産地研究室	○	A	ラズベリーの安定生産を目的として、複数機関の連携を十分に行うことにより、地域の活性化に繋がる取り組みになるよう期待します。
138	置賜特産野菜「おかひじき」の省力的栽培体系の確立	置賜総合支庁産地研究室	○	A	収穫作業を効率化することは、今後の農業には重要です。成果を他の作物に活かすことも考え研究を発展させることを期待します。
139	地域特産作物「薄皮丸なす」の安定生産技術の確立	置賜総合支庁産地研究室	○	A	薄皮丸なすの出荷時期の前進化と収量向上を目的とした研究であり、地域特産品としての活用などに貢献するものと期待します。
140	夏秋パプリカの安定着果技術の確立	庄内総合支庁産地研究室	○	A	地域特産農産物の高付加価値化に貢献する研究と思います。産地形成に向け、マニュアルの作成につなげてください。
141	新品種を主体としたおとうろ産地化を目指す生産技術の確立	庄内総合支庁産地研究室	○	A	庄内地域において、どの手法が効果かについて結果をまとめ、新しい産地化を目指してください。
142	いちごオリジナル新品種の開発	庄内総合支庁産地研究室	○	A	オリジナル新品種の開発は戦略的に重要ですので、病害抵抗性の強化に向けて研究を継続してほしい。他の機関と連携を密にして目標達成していただきたい。
143	温暖化に対応した果樹・林木・野菜・牧草の適応性調査	農業総合研究センター園芸試験場	可	業務	基礎データを積み重ねていってください。
144	温暖化に対応した水稻の安定生産技術の開発	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	気象変動への対応は重要です。その中で、水稻の収量・品質に及ぼす影響と生理メカニズムの解明と安定生産技術の確立については、緊急性のある内容と思われるので、スピードある開発を期待します。
145	第4期山形県りんごオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	どのような付加価値を有するりんごを開発するのか、しっかりした育種戦略をもって研究を進めてください。
146	大型クロマグロの漁場形成要因の解明及び漁獲技術の開発	水産試験場	○	B	クロマグロの漁獲調査など温暖化との関係で調査することは意義があります。地域の課題を明確にし、資源保護、乱獲防止の視点を重視しながらデータ収集してください。

147	細霧発生装置利用によるおうとうの安定生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	△	B	栽培技術を確立するために必要な課題です。低コスト化に配慮して技術開発を進めてください。
148	暑熱ストレス軽減のための家畜飼養技術の確立	農業総合研究センター畜産試験場、養豚試験場	○	B	家畜農家にとって、地球温暖化への対応は重要なテーマです。過去のデータも活用して、山形県の実情に合わせた家畜飼養技術を確立してください。
149	積雪寒冷地型ヒートポンプシステムと効率的利用技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	○	A	これまでの研究成果を活かし、システムの生産、維持、廃棄に必要なエネルギーや耐用年数など、ライフサイクル全体での総合的な見地から研究を進めてください。
150	低炭素時代にむけた自然エネルギー利用率を最大限に高める施設栽培用ヒートポンプシステムの開発	庄内総合支庁産地研究室	○	A	複数の機関の連携を密にし、ヒートポンプシステムの運転効率及び汎用性の向上などに成果があげられることを期待します。経済性を十分に念頭に置き取り組んでください。
151	稲の高温障害における気象・稲体要因解明と対策技術の構築	農業総合研究センター水田農業試験場	○	A	稲の高温障害機構解明は、地球温暖化対策技術の開発にもつながるものと思います。しっかりと計画を立て研究を進めてください。
152	温暖化に対応したサケ増殖技術開発に向けた予備研究	内水面水産試験場	○	C	サケの生態、生息、回帰等の基礎データを継続的に取ることは重要と考えます。本研究に向け、今後の方向性を早期に見出すようにしてください。
153	農作物作柄診断解析調査	農業総合研究センター	可	業務	温暖化や気象の変動に対応し、農産物の安定生産、品質維持のためのモニタリングを行う重要な業務です。長期的な視点で取り組んでください。

表2 平成22年度県分野融合・萌芽研究推進事業課題 事前評価

【若手研究者の研究支援枠】

番号	研究課題名	所属名 研究者名	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			採否		
1	おうとう花芽における凍結抑制物質の探索	農業総合研究センター園芸試験場 小野寺 玲子	○	採	科学的な裏づけのある興味深いテーマだと思います。植物体内の糖含量を高めることとコーティングを組み合わせることで凍結を抑制するという発想は注目できます。成果が得られることを期待します。
2	やまがたモス里山活用プロジェクト(林床を活用したコケ栽培技術の開発)	森林研究研修センター 古澤 優佳	○	採	新産業につながる可能性がある研究ですが、類似研究や民間企業が強い分野でもあることから、市場性を踏まえた研究とすることが必要です。また、育成期間の短縮の他、屋上や壁面緑化の新技术開発にもつなげられるよう成果を期待します。

【戦略的研究プロジェクト創出枠】

番号	研究課題名	所属名 研究者名	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			採否		
1	ラ・フランスにおける食べ頃判定ラベルの利用可能性研究	農業総合研究センター園芸試験場 米野 智弥	○	採	知的財産権の取扱いに注意しつつ、ラベルによる熟度判定技術を確立し、実用化に結びつけてください。
2	海藻(ホンダワラ類)による効果的な二酸化炭素固定技術の開発	水産試験場 平野 央	○	採	海藻による二酸化炭素固定効果について知見を得ることは、地球環境の保全の観点から価値があると考えます。今後、ビジネスプランの作成など経済効果を念頭に進めていただきたい。

表3 平成22年度県試験研究機関公募型研究課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価結果	申請の可否	
1	水田における難防除雑草の発生実態の解明	農業総合研究センター	△	可	難防除雑草の発生に関する基礎調査としての価値は認めますが、具体的な研究内容に不明確な部分があります。実態調査にとどまらず、科学的な知見に到達するよう研究を進めてください。
2	積雪寒冷地水田における温室効果ガス低減のための有機物分解促進技術の開発	農業総合研究センター	○	可	メタン発生削減と堆肥効果のトレードオフの程度を明らかにしてください。自然が相手であることから、外乱の少ない精度の高い測定の実施に努め、定量的な評価方法を確立してください。未分解残わら対策にも効果が上がることを期待します。
3	おうとう病害抵抗性品種の早期選抜技術の開発	農業総合研究センター 園芸試験場	○	可	分子生物学的手法によるおうとう育種として必要な課題であり、品種選抜の効率化に役立つ研究として評価します。成果を期待します。
4	おうとうの輸出や新たな流通チャネルを開拓・促進するパッケージ技術の開発	農業総合研究センター 園芸試験場	○	可	これまでの研究成果を活かすとともに、研究組織が効率的に連携できるような情報の共有化に配慮し、低コスト化への見直しと技術的課題の明確化を早期に行ってください。
5	おうとう苗木における根頭がんしゅ病の耕種的・生物的防除法による防除技術の開発	農業総合研究センター 園芸試験場	○	可	研究計画がしっかりしており、成果が期待できます。熱水土壤消毒技術、新規拮抗微生物等の利用、診断技術という3つの課題の円滑な連携に留意して研究を進めることを期待します。
6	西洋なし消費拡大のための食べ頃判定技術の確立	農業総合研究センター 園芸試験場	○	可	山形県の取組むべき研究課題であり、確立されれば消費拡大に大きな効果のある技術であると評価できます。良い成果が得られることを期待します。
7	膨軟化籾米の加工・調整ならびに給与技術の開発	農業総合研究センター 畜産試験場	○	可	県産飼料用米の幅広い活用を図る研究として評価します。コストや評価方法なども視野に入れて開発に取り組んでください。
8	飼料用米ベレット飼料の給与が乳用牛の反芻生理と生産性に及ぼす影響	農業総合研究センター 畜産試験場	○	可	輸入トウモロコシの代替となる飼料米の研究として価値のある内容だと思います。技術的要素と経済性の両方について基礎的なデータを集め、飼料用米の利用拡大に結びつけていただきたい。
9	国産和牛肉の風味特性解析と良風味を引き出す熟成・輸送条件最適化による国際競争力強化	農業総合研究センター 畜産試験場	○	可	科学的な風味特性を解析するとともに、風味を最大限引き出す熟成・調理方法を確立することは、和牛肉消費拡大にも繋がる重要な研究課題だと思います。これまでの手法や知見を整理し進めるとともに、評価方法も検討しながら取り組んでいただきたい。
10	エクストルーダー処理した高消化性飼料米の豚における給与と限界の解明と多給技術の開発	農業総合研究センター 養豚試験場	○	可	エクストルーダー処理した飼料米の飼養成績に豚の消化器官の生理学的特性を踏まえた評価を加えることも必要と思います。研究計画の全体的な設計を十分検討するとともに、具体的な試験計画を立て、研究を進めていただきたい。
11	県産主要花きにおける高温期の生産流通に対応した切り花品質管理技術の開発	置賜総合支庁 産地研究室	△	可	具体的な目標をどの程度のところに設定しているのかが不明確です。改善方法の科学的な根拠を明確にして取り組んでいただきたい。
12	ストップ耕作放棄地化！わらびの省力的な早期成圃化技術の開発	最上総合支庁 産地研究室	○	可	農業従事者の高齢化を考えると、省力性に注目した取り組みは高く評価できます。現地導入に際しては収益性の観点が重要になると考えられますので、しっかりとしたビジネスモデルの構築につながる開発をしていただきたい。
13	高付加価値商品開発のためのやまぶどうの安定生産及び加工技術の開発	最上総合支庁 産地研究室	○	可	無核化による加工効率性等の自由度が向上するメリットは大きいと思われます。特徴ある加工品開発が課題となっており、機能性などを活かした高付加価値新商品開発につなげてください。
14	寒冷地におけるブルーベリーの安定生産技術の確立	庄内総合支庁 産地研究室	○	可	根強い需要がある人気のブルーベリーについて新たな視点からの研究開発を進めるといった面白い計画であり、低コスト化と安定生産の両立が鍵となると考えられます。現場に普及できる成果を期待します。